

牧

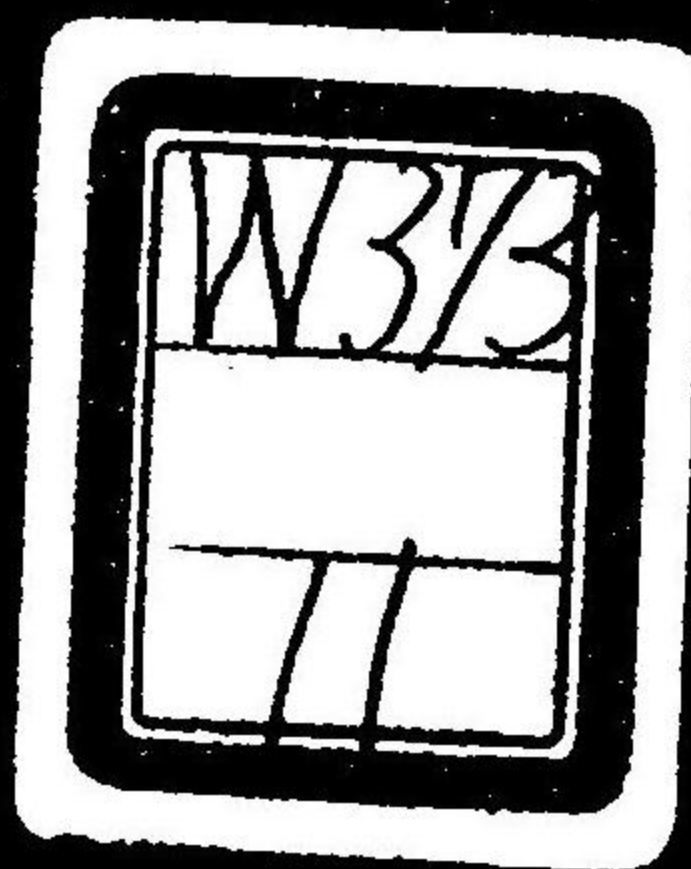
羊

說

杉山

親譯

下



W373
11



850352

牧羊説卷之二

○羊ヲ畜養スル事

○羊ヲ畜養スルニハ温煖ニシテ清淨ナル藁ノ臥床ヲ設クル事肝要ナリ。特ニ清淨ナル臥床ヲ設クルハカ所ナルベキタテ及其毛ヲ汚サシメザルヲ欲スレバナリ。何トナレバ汚レタル毛ハ清淨ナル毛ヨリ其價ノ大ニ減スルガ故ナリ。

○又小屋ノ中ノ生氣ハ過煖ニ宜シカラス。又過冷ニ宜シ

杉山親譯

カラス併ニ屋中ニ臭氣無ラシム可シ。是等ノ事件ニ注意スルハ。已ニ前條ノ羊屋造營ノ箇條ニ論セリ。諸惡シキ臭氣ノ屋内ニ生スルヲ避クルニハ。羊糞ヲ久ク屋内ニ置ク勿レ。

○一月六度必ラス屋内ノ羊糞ヲ取り棄ツ可シ。

○且又天氣宜シキ時ハ。毎日一時間別ニ柵ヲ設ケタル場所ニ放ツ可シ。是其生氣ヲ受ケシムルノ爲メナリ。此柵内ニハ鹽ヲ器ニ盛リテ秣槽ニ入レ置キ以テ羊ニ食マシム可シ。

○羊ヲ肥ヤス事

○羊ヲ肥ヤシ以テ大ニ利益ヲ得ント欲スルニハ。常ニ屋内ニ於テ畜養スルヲ無カル可シ。何トナレハ。屋内ニ於テ畜養スル時ハ。其費用大ニシテ。利益至テ少キガ故ナリ。故ニ羊ヲ肥ヤスハ。屋養牧養併セ行フ可シ。牧ニ於テ肥ヤスト。屋ニ於テ肥ヤスト。兩ナカラ羊ヲシテ。飢渴ヲ受ケザラシムルヲニ注意ス可シ。

○肥ス可キ羊ハ。秋後ヨリシテ。是ヲ始ム可シ。當初穀物ヲ刈取レル地ニ放チ。而メ後ニ牧草ヲ刈リ取り終レハ。苜蓿ヲ生スル地ニ放チ。ニ番草ノ生スル後ハ。牧ニ放ツ可シ。若シ牧場ニ牧草乏シケレハ。直ニ羊ヲ屋

内ニ入レテ畜養ス可シ。

○屋内ニ於テ肥スガ為ニ與ル食物ハ枯草アカチヤ紫苜蓿アチヤ蕪菁ヲ與ル一最良シ。就中一匹ノ羊子ニ毎日紫苜蓿四斤一ハ我二百其代用ニ又馬鈴薯ヲ與ル一アリ。枯草一斤一六十六又其最上ノ食ニ至テハ蕪菁ヲ食シム可シ。其始メ蕪菁ヲ與ヘ漸々ニ其食ヲ進メテ日々三斤ヲ與ルニ至ル可シ。羊ニ蕪菁ヲ與ヘテ其快ク食シムルガ為ニ日々鹽一ロート三分ノ一。若クハ二分ノ一ヲ之ニ加ヘテ一匹毎ニ食シム可シ。

○此外羊ヲ肥ヤスニ最良キ食物ハ毎日一匹毎ニ枯

草一斤。紫苜蓿五斤。藁三斤。穀物四半斤。蕪菁四半斤ヲ與フ可シ。

○蕪菁及ヒ馬鈴薯ハ粗ク切ミテ。切り藁ヲ混和シテ食シム可シ。是等ノ食物ニ穀物。油餅粉ヲ混和シテ與ルモ亦可ナリ。

○肥ス可キ羊ハ温暖ナル狭キ暗室ニ入レ置キ。其身ヲ自在ニ動カス一無ラシム可シ。藁ヲ以テ製セル卧床ヲ多ク布キ屢之ヲ替ヘ。羊ヲシテ常ニ温暖ニシテ。清淨ナル卧床ニアラシムル事最モ良シ。

○羊ヲ肥スノ始メニ於テハ日々之ニ食ヲ與フル。三

度ト定メ、漸々ニ其肉肥ヘ、脂生スルニ從テ、其食時ヲ
増テ、毎日四度、或ハ五度ト定ム可シ。但シ其食時毎ニ、
多量ニ食シムルヲ無ク、少シ宛分チテ食シム可シ。
○其食時毎ニ、其食ヒ殘セル食物ハ、秣槽ノ格子ヨリ
取リ棄テ、能ク清淨ニ掃除ス可シ。

○羊ヲ肥ヤスハ、徐々ニ肥ヤス可キガ故ニ、強テ香料
ノ飲料ヲ飲マシム可カラス。肥ス可キ羊ヲ入レ置ク
屋中ニハ、新シキ清淨ノ水ヲ桶ニ入レテ、羊ヲシテ隨
意ニ飲マシム可シ。

○羊ヲ屋内ニ於テ肥スハ、十二週ニ過ザル可シ若シ

二週ニ過グルハ、其益無キカ故ナリ。

○良好ノ牧野アル地方ニ於テハ、羊ヲ肥ヤスヲ、至テ
速カニシテ、且ツ是ヲ肥ヤスニ其費用少ク、加之高價
ノ肥ヤス事ニ用フル食品ヲ貯蓄スルニ於ケルモ、亦
甚々容易シ。

○羊毛ヲ洗フ事、并ニ羊毛ヲ鋏剪ル事

○羊毛ヲ洗フハ、天氣暖和本ニシテ、是ヲ洗フ可キ水モ、
亦温カナラザレハ、洗フヲ勿ル可シ。水ノ温度ハ、列氏
ノ驗温器ノ十一度ニ下ラザル可シ。若シ其水甚冷カ
ナル時ハ、羊ヲシテ艱マシムルヲアリ。

○羊毛ハ水ヲ以テ洗フヲ良シトス。水ノ温度ハ至テ寒冷ナルモノヲ用フルト勿レ。何トナレハ寒冷ナル水ハ其毛ヲ潔白ニ洗ヒ難キガ故ナリ。且其水底ハ汚濁ナル可カラス。是レ其羊ノ水ヲ攪擾シテ汚濁ナラシムレバナリ。故ニ其水底ニ砂アル場所ヲ撰フヲ良シトス。

○水ノ深サハ羊ノ浴泳スルニ至ル可ク。其水岸ニ上ルニ從テ其深サモ亦次第ニ減少シテ羊ノ歩スルニ至ル可シ。水岸ノ高サハ峻シカラズシテ浴スル所ノ羊ノ浴シ終リテ其儘沾濕シテ上リ來ル可キ場所ヲ

撰フ可シ。羊ノ水中ニ飛入ル可キ場所ハ甚タ深カル可カラス。是其羊ノ疵傷無カラシムガ為ナリ。

○洗者ハ岸上ニ立テ專ハラ注意シテ羊ノ水ニ飛入ルニ疵傷無カラシム可シ。

○羊ノ水ニ入りテ復タ岸ニ上ル可キ場所ニ柵ヲ設ケテ一路ヲ通ス可シ。爰ニ柵ヲ設ケテ網ヲ張り置クハ洗毛羊ノ逃ルヲ捕フルガ為メナリ。

○一箇ノ洗者ハ水中ニ於テ羊ヲ洗ヒ次テ他ノ一箇ノ洗者ノ手ノ達ス可キ距離ニ在ル可シ。

○羊ヲ洗フニ其毛ヲ柔軟ニナシテ清淨ニ洗フト難

シ
 ○其毛ヲ水ニ漬シテ柔軟ニ爲スニハ左ノ方法ヲ施
 ス可シ水邊ニ小屋ヲ設ケ羊ヲ聚メテ一所ニ入レ置
 キ一匹毎ニ牧者是ヲ捕テ水中ニ立在セル洗者ノ方
 ニ渡ス可シ第一ノ洗者ハ捕フル所ノ羊背ヲ水ニ漬
 シ其兩足ヲ捉テ兩度左右ニ振ル可シ第二ノ洗者ハ
 其背ヲ水ニ漬セル羊ノ腹腰胸咽喉ヲ清淨ニ洗フ可
 シ但シ此時其毛ヲ能ク水ニ漬ス下肝要ナリ第三ノ
 洗者ハ此羊ヲ籬ニ依テ直立セシメ先ツ其足ヲ立シ
 メテ今迨水ニ冷ヤセル其背頸窩兩脇ヲ洗フ可シ

○羊ヲ水ニ漬シテ其毛ヲ柔軟ニナス下ハ日暮ニ至
 ル迨ニ是ヲ為シ終リ徐々ニ其路ヨリシテ小屋ノ中
 ニ入レシム可シ小屋ノ中ニハ藁ヲ厚ク散布シ其中
 ニ外氣ヲ通ゼザラシム可シ是レ羊ノ外氣ニ感冒ス
 ル下ヲ怯ルガ為メナリ

○其近日ニ至リテ再ヒ復タ羊ヲ清潔ニ洗フ可シ此
 日ハ兩箇ノ洗者ヲシテ是ヲ洗ハシム可シ各箇ノ洗
 者ハ羊ヲ水ニ漬シ左右ニ動カシテ善ク洗ヒ羊ノ身
 邊ニ已ニ汚濁ノ水無ク只清淨ノ水アルニ至ル迨是
 ヲ洗フ可シ諸羊ヲ洗フハ流水ニ漬シテ洗フ可シ是

洗タル汚水ノ其傍ラニ立在セル他ノ洗者ノ方ニ流
レ來ルヲ嫌フガ為メナリ。但シ其羊ハ徐々ニ清水ノ
方ニ來ラシム可シ。又一箇ノ洗者ハ羊ヲ捉テ爰ニ述
ル所ノ方法ヲ以テ取扱ヒ其毛ヲ善ク丁寧ニ撫擦シ
テ水中ヨリ出ス可シ。

○多クノ羊ヲ洗ヒ終レハ直ニ其路ヨリシテ近傍ノ
牧場ニ驅リ入レ此所ニ於テ羊ニ飽食セシム可シ。毛
ヲ鋏ミ剪ルニハ復々更ニ其毛ヲシテ沾濕セシメザ
ルト其汚穢ニナラシメザルトニ注意ス可シ。故
ニ此羊ハ雨ニ沾濕セシメザル可シ。併ニ牧場又ハ屋

内ニ追入レ可キ途中ニ於テ其毛ヲ汚ガサルトニ
注意シ且屋内ニ於テハ新鮮ノ氣ヲ受ケレム可キト
ニ注意ス可シ。兩日牧場ニ於テ羊毛ヲ鋏ミ剪ルト難
ケレハ羊ヲ屋内ニ入レ置キ枯草或ハ藁ヲ與ヘテ以
テ善ク飼養ス可シ。

○羊毛ヲ鋏ミ剪ルハ其全體十分乾ケル時ヲ待テ始
メテ鋏ミ剪ル可シ。羊毛ヲ鋏ミ剪ル方法ニ搥ルニ其
毛ヲ洗ヒシ後三日ヲ經ザレバ毛ヲ鋏ミ剪ルト無カ
ル可シ。天氣良シキ時ニ毛ヲ鋏ミ剪ル可キ場所ハ雜
草生セル園中ニ於テ剪ル可シ。雨天ニハ穀物杯ヲ入レ

置ク可キ小屋ニ於テ。是レヲ為ス可シ。

○メリノニ産スル羊ハ、蘇西西班牙ノ種類ヨリ出デ、撒撒遜ノ地ニ於テ其種類蕃蔓セリ。此種類ノ羊毛ハ至テ細クシテ且ツ美ナリ。此類ノ羊毛ヲ鋏ミ剪ルハ、先ヅ其毛ヲ洗ヒ、而シテ後ニ之ヲ鋏ミ剪ル可シ。儲毛ヲ洗ヒ終ラバ、塵埃多キ道路ヲ通過シテ、小屋ノ中ニ驅入ル、フ勿レ、成ル可キ丈ケ草原ヲ經来リ、其毛ノ能ク乾クヲ待テ、小屋ノ中ニ入レシム可シ。

○羊毛ヲ洗フハ、強テ其毛ヲ摩擦スル_レ勿レ。両手ヲ以テ、オモ徐ニ之ヲ壓付ク可シ。倘シ之ヲ洗フ時、雨天ナラ

ハ、必ス小屋ノ外ニ出ス_レ勿レ。且又羊毛ヲ洗フニ方テ、其洗フ所ノ水愈温カナレバ、汚穢モ亦愈速ニ除キ去ルナリ。

○羊毛ヲ鋏ミ剪ル_レニ於テ、左ノ事ヲ心得可シ。羊毛ヲ鋏ミ剪ルニハ、其全體ノ毛ヲ清潔ニ為シテ、平滑ニ鋏ミ剪リ、斑々ニ鋏ミ剪ル_レ無カル可シ。且其羊ヲ堅縛ス可カラス。其皮膜ヲ破リ傷ツク_レ無カル可シ。又羊毛汚穢ナレハ、其害トナルガ故ニ、善ク意ヲ用ヒテ、其汚穢ヲ除キ棄ツ可シ。故ニ羊ノ嘔吐、及ヒ尿糞ハ直ニ掃除ス可キナリ。

○羊毛ヲ鋏ミ剪ル者ハ、各箇ノ羊ヲ小屋ノ内ニ入レ

置キ其首ヲ上ニ向ケ其背ヲ下ニ向ケ置ク可シ前後ノ足ハ廣幅ノ帶ヲ以テ合セテ堅ク縛ス可シ是レ羊ヲシテ苦痛ヲ受ザラレムルガ爲メナリ其後足ヲ縛スル帶ニ係蹄ヲ掛ク可シ羊毛ヲ鋏ミ剪ル者ハ羊ノ腹ヲ張ラレメ且其聊カ抵抗ヲ爲スヲ壓スルガ爲メニ其一箇ノ足ヲ此係蹄中ニ入レシム可シ

○直ニ其腹及ヒ其左脇ノ毛ヲ鋏ミ剪リ其上部ハ脊骨ヨリシテ頸ニ至リ其下部ハ尾ニ至ル此時意ヲ用ヒテ羊ノ位置ヲ變ス可シ儲鋏ミ剪タル一邊ハ地向ケ而シテ他ノ一邊ヲ鋏ミ切ルニ其頸ヨリシテ下

部ニ至ル可シ全ク之ヲ鋏ミ剪リ終レハ是ヲ傍ニ取除ケ置キテ又直ニ其足其尾其耳其陰囊等ノ毛ヲ鋏ミ剪ル可シ

○羊毛ヲ鋏ミ剪ル方法ハ英國ノ法ニ倣フヲ良トス○儲鋏ミ剪タル羊毛ヲ分チテ八箇乃至十箇ト爲シテ清淨ナル長キ机上ニ布キテ廣延シ其鋏ミ剪リタル方ヲ下ニ向ケテ其毛ヲ乾カシ置ク可シ

○此時清淨ナラザル毛ハ意ヲ用ヒテ良毛中ヨリ取除ク可シ其左右上部ノ毛ハ各一束ト爲シテ下ニ向ケ而シテ此八箇乃至十箇ニ爲シタル毛ヲバ復一邊

ニ聚メ置キ、各箇ノ兩端ヲ當中ニ向ケ聚メテ一團ト為シテ、一箇ノ圓球ヲ形成シ、強キ紐ヲ以テ、其一箇毎ニ束子テ、十字ニ結ブ可シ。

○其乾毛ハ一箇ニ束子難キカ故ニ、囊中ニ納ム可シ。
○羊毛ヲ久シク貯ヘ置ク時ハ、其量多ク減スルカ故ニ、鋏剪レル後、直ニ賣却スルヲ最良シトス。

エングラール氏農學書中牧羊ノ條ヨリ、左ノ事ヲ抄録シテ、此書ノ參考ニ具フ。

○三角ノ羊毛鋏ハ、通例用フル處ノモノナリト雖モ、英國製造ノ磨礪セズ、只砥石ヲ以テ磨ケルモノニ比

スルニ其用ヒ寡シ。

○羊毛ヲ鋏ムニハ、羊ノ後足ヲ堅ク縛リテ、其背ニアラシメ、是レニ係蹄ヲ掛ケル時ハ、甚タ容易ナリ。此係蹄ノ中ニ、羊ノ一足ヲ入レテ、其後足ヲ後方ニアラシメ、其腹ヲ張ラシメテ、羊ヲ動カス事ナカラシム。

○毛ヲ鋏ム者ハ、皮ヲ延シ張ラシムル事ニ、意ヲ用フ可シ。

○其膜、及ヒ其皮ヲ、鋏ノ側面ヲ以テ雙方ヨリ密ニ壓シテ、其毛ヲ鋏ミ剪リ、束子テ堅ク一束トナス可シ。

○囊中ニ毛ヲ詰入ル、事ナシ。

○ノリノニ産スル羊ハ一介量乃至一介二十五ヲンスノ毛ヲ出ス。高地ニ産スル羊ハ一介半乃至二介ノ毛ヲ出ス其牧宜シキ處ノ場所ニ於テ畜養セル羊ハ二介乃至三介半ノ毛ヲ出セリ。

○毛ヲ缺ミ剪ル後ハ羊ヲシテ冒寒セシメス。且其養法ニ意ヲ用フ可レ。

○羊小屋廣狹ノ事

○夫レ羊ヲ入レ置ク小屋ハ廣濶ナルヲ良トス。通常ノ羊小屋ハ暗クシテ明ラカナラス。且ツ群羊相接シテ群居スルガ故ニ其毛ヲ害スル而已ナラス懷孕ノ

牝羊ニ至テハ猶甚害アリ。是故ニ羊小屋ノ濶サヲ定ムル事左ノ如シ。

○一歳ノ齡ノ羊ヲ入ル、小屋 方六十六パルム 一パルムハ我三才三分許

○牡羊ヲ入ル、小屋 方七十七パルム

○母羊ヲ入ル、小屋 方九十九パルム

中等ノ數各箇ノ羊小屋 方八十 パルム

○第二

○羊小屋ハ總テ諸ノ獸畜ヲ入ル、小屋ニ比スレハ至テ乾ケルヲ良トス。濕氣ハ羊ノ健康ヲ害シ其毛ノ成長及ヒ肥ユルヲ及ヒ其懷孕ニ於テモ亦害アリ。

○第三

○羊小屋ハ、明朗ナル可シ。小屋ノ内明カナルハ、羊ヲシテ健康ナラシメ、且其毛ヲ成長セシム。

○第四

○屋内ノ温度ハ、列氏ノ八度ニ過ザル可シ。屋内甚タ温暖ナレバ種々病ヲ醸ス^{シムル}トアリ。通常ノ羊ニテ、特ニ好天氣ノ日ニ小屋ノ外ニ縦遊セシムルモノ、如キハ自己ノ毛皮ニテ十分ニ寒氣ヲ防クヲ以テ、雨雪風寒ニモ亦十分堪フルトヲ得可シ。但其未タ成長セズシテ、小屋ノ内ニアル時ハ、適宜ノ温暖ヲ要スルガ故ニ、其

周圍ヲ密閉スル事必要ナリ。

○第五

○羊小屋ノ高サハ、天井ノ下、四尺乃至四尺五寸アル可シ。

○第六

○其入口ハ、羊ノ負數ノ多少ニ從ヒ、十分廣濶ナル可シ。是羊ノ入口ヲ出入スルニ毛ヲ損セズ、且其懷孕ノ時、損害ナカラシメンガ為ナリ。

○第七

○羊小屋ハ、各箇ニ分割ス可シ。是其羊ヲ互ニ相別ツガ

為ノニシテ假令ハ懷孕ノ羊牡羊牡羊ノ子羊子及ヒ
病羊トヲ分ツ可シ。

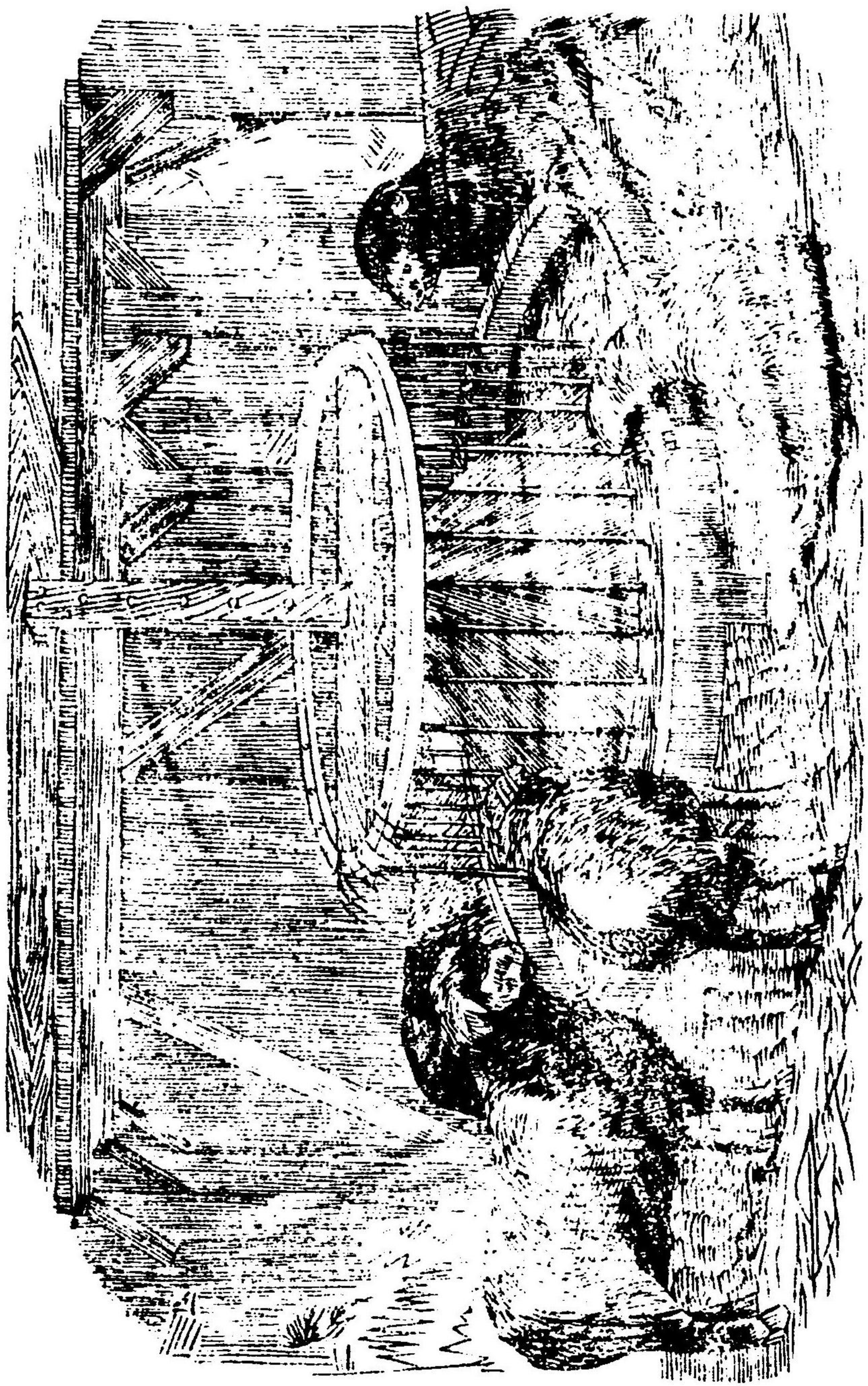
○第八

○格子ヲ設タル秣槽ハ羊ヲシテ其食フ所ノ枯草ノ
其毛上ニ落ルヲ防クカ為メニ造レル毛ノナリ圓キ
格子ヲ設ケタル秣桶ニハ鉾直ノ格子ヲ設ク是特ニ
懷孕ノ牝羊ノ為メニ必要トナス何トナレハ此格子
アル時ハ牝羊ノ其ノ中ニ入り難ケレハナリ。

○第九

○羊小屋ハ時々掃除ス可シ秋毎ニ一度大ニ掃除シ其

格子ヲ設ケタル秣槽ノ圖



壁ヲ白ク塗ル可シ。是レ之ヲ能ク掃除スル時ハ、特ニ其毛ヲ成長スルニ於テ、最モ益アリ。

○第十

○大ナル羊小屋ニ於テハ、各一箇ノ水筒ボムブヲ具ヘ置ク可シ。是羊ヲシテ、毎日屢水ヲ飲マシメンカ為メナリ。故ニ頗ル傾斜セル鉢ヲ入レ置キ、是ヨリシテ、羊ノ方ニ水ヲ流シ來ラシメ、其餘ハ屋外ニ流シ出サシム可シ。

○第十一

○格子ヲ設ケタル秣槽ハ一週間ニ兩度水ヲ以テ洗ヒ清ムルカ、或ハ流水ニ浸シテ洗フ可シ。

○羊子ヲ取扱ノ可非ハ、全然牧者ノ所置ニ在リ。故ニ練熟シタル牧者ハ、羊ノ畜主ノ為メニ至寶ト云フ可シ。左ニ牧者ノ資質ヲ述フ可シ。

○第一

○牧者ノ資質ハ、柔和ナル可シ。

○第二

○牧者ハ全然羊子ヲ取扱フニ丁寧ヲ竭ス者ヲ撰フ可シ。各箇ノ羊ヲ取扱フニ於テモ、亦意ヲ用フル者ヲ良トス。

○第三

○牧者ノ資質ハ物毎ニ信切ヲ盡ス者ヲ良シトス。

○第四

○牧者ハ羊ニ食スル諸般ノ食料ヲ知り且羊ノ諸病ノ因テ發スル所ノ原因ヲモ知ラズンバ有ル可カラズ。

○第五

○牧者ハ畜主ヨリ委任サレタルコトヲ善ク意ヲ用レテ所置シ且其所置シタル事ヲ委シク是ニ説述ス可シ。

○第六

○牧者ハ毎年定額ノ俸金ヲ受取ル可シ。

○第七

○格段ニ牧者ヲ賞ス可キ事アルトキハ羊子ノ成長ノ進歩ヲ見テ以テ其賞金ノ高ヲ定ム可シ。

○第八

○畜主所持ノ羊ヲ一ツニ集メテ盡ク皆一牧者ニ命シテ畜養セシムルハ宜シカラス。

○第九

○若シ牧者其過失ニテ羊ヲ損害スルコトアラバ必ラズ其償金ヲ出サシム可シ。

○羊ヲ蕃殖スルヲ○肥ヤスヲ○成長セシムル事
 ○凡羊ノ畜主ハ、年々良種ノ羊ヲ得ルヲ以テ、要旨
 トナシテ、漸々惡種ノモノヲ變性セシメテ、良種トナ
 スヲ要ス可シ。○老羊○其毛少キ羊○子ヲ孕ミ難
 キ羊○父母羊ノ原病ヲ受タル羊○體ノ不具ナル羊
 ○其毛惡シキ羊○羊子ヲ愛セサル羊
 秋ニ至リ、其交合ノ時ニ於テ、是ヲ變性セシメ、春ニ至
 ラバ、其毛ヲ鋏ミ剪ル可シ。○此等ノ羊子ハ、肥サシム
 ルヲニ用フ可シ。
 ○其毛ヲ成長セシムルニ兼テ、速ニ是ヲ肥大ナラシ

メント欲スルニハ、牡羊ヲ養フヲ良トス。
 ○然リト雖、幼羊ヲ養育シテ、其取扱ノ法宜シキヲ得
 レバ、牡羊ヲ畜フヨリ、幼羊ヲ養育シテ、其益アルヲ
 知レリ。
 ○牡羊ハ、通例牧ニ放チテ、肥ヤサシム可シ。
 ○屋内ニ於テ肥ヤサシムルニ、穀物ヲ食シメテ以テ
 肥エ太ラスル時ハ、其費用格別多分ナル可シ。故ニ屋
 内ニ於テ肥サント欲スル時ハ、馬鈴薯、及ヒ豌豆ノ切
 リ藁、枯草、麥餅ヲ與フルヲ最良シ。
 ○ウエツケルリン氏ノ說ニ、枯草十斤ヲ食料ニ與フ

レハ羊ノ體ノ重量ヲ益ス一半斤ナリト云リ。
又同氏ハ左件ヲ述タリ。

○羊ノ活體ノ重量百斤ノモノ

イ 肉 五十斤乃至五十四斤

ロ 脂 十一斤乃至十二斤

ハ 頭及ヒ其臟腑ノ用ニ供スルモノ七斤乃至十斤

ニ 表皮及ヒ其毛ヲ除キテ七斤

ホ 食用ニ供ス可カラサル不用ノ部分等八一斤百
分ノ十七乃至二十五

○羊ノ諸病

○乳房腫脹

○泄瀉

○羊子ノ麻痺

○舞病

○オングニス

獸畜ノ
病名

○乳汁ヲ吸フ羊子ハ時アリテ母羊ノ乳房腫脹ニ艱
ム事アリ。簡易ノ療法ハ其始メ微温ノ石鹼水ヲ以テ。
乳房ヲ善ク洗ヒ。而後ニカミルレ。接骨木花及ヒ枯草
ヲ沸湯ニ浸シテ。屢其腫脹セル部ヲ蒸漏ス可シ。又一
法アリ。毎夕水銀膏四分。錦葵軟膏四分。及ヒ亞麻油三
分ヲ研和ヒル軟膏ヲ塗ル可シ。

○乳房ニ腫物生スルカ。或ハ疵傷アル時ハ微温ノ石
鹼水ヲ以テ洗ヒ。番黃。蘆薈末。及ヒ的列併油ヲ以テ軟
膏ヲ製シ之ヲ塗擦ス可シ。

○乳房ノ剥脱ニハ屢テリアカヲ塗リテ妙ナリ。
 ○若シ母羊羊子ヲ産ム前後ニ多食スルカ。或ハ又羊子ノ嚴シキ戸隙ノ風ニ感冒スル時ハ。徃々泄瀉ヲ發スル事アリ。

○泄瀉ヲ速ニ醫スル療法。左ノ如シ

○此法。羊子ヲ温保シテ。其母羊ニ良キ枯草ヲ食シム可シ。若シ此泄瀉他ニ傳染セントスル時ハ。此病ニ罹ル羊ヲバ直ニ他羊ト區別シ置ク可シ。

○或ル牧羊家ノ説ニ麻屈泥失亞二分。大黃末一分ヲ取リ加密列ノ煎汁ヲ混和シ。毎日六度一茶匙ツ、與エ

テ羊子ノ泄瀉ニ妙ナリト云フ。

○羊子ノ麻痺

○羊子ノ麻痺ハ危嶮。病ナリ。ウエツケルリン氏曰
 羊子ノ體倦怠シテ其背ヲ高屈シテ悲傷シ。其腹ハ鼓脹シ。次テ又其關節尤直シ頸筋屢攣急シ。終ニ咽喉ニ波及シ。其口中ニ乳ヲ入ル、ト雖モ更ニ咽下スルヲ能ハサルニ至ルモノアリ。此病ニ罹ル間能ク頸ル軟ナル惡性ノ腫物。膝及ヒ飛節ニ生シ。或ハ他部ニ發スル事アリ。此ヲ發スル羊ハ其體ヲ動カス事ヲ得スシテ。凡ソ三四日ノ間地上ニ困轉セリ。此麻痺ヲ防クニ

ハ母羊ヲシテ故ニ飽食セシメザル可シ。何トナレバ。此病ノ因テ生スル所以ハ。其乳汁脂肪過多ナルニ因レバナリ。此病發スル時ハ。其母羊及ヒ羊子ニ芒硝ヲ與ヘテ。以テ其病ヲ緩解ス可シ。

○舞病

○此病ハ其腦中ニ胞蟲ノ生スルニ因テ發スルナリ。此虫ハ胡桃ノ大サニシテ。終ニ雞卵ノ大サニ變スルナリ。

○其囊ハ薄膜ヨリナリ。其外面ハ瓜子ニ類セル無數ノ細小ナル體ヲ以テ是ヲ被覆ス。此各箇ノ細小ノ體

ハ。則一箇ノ虫ニシテ。獸畜ノ腦ヲ食テ生活スルモノナリ。方今ニ至テハ。豕ニ發スル一種ノ腫物ニ於ケルカ如ク。此蟲ヲ以テ繚虫リントウオムノ發生トナセリ。

○此病ハ。特ニ其幼ナル時發スルモノニシテ。其屋内濕氣アリテ暗ク。其飲水涼冷ナラス。猶且炎熱ノ日ニ胃寒シ。或ハ子羊互ニ抵觸スル等。此病ヲ透發スルナリ。概シテ是ヲ云フ時ハ。多般ノ原因ニ因テ此病ヲ醸スナリ。

○此病ニ罹ル羊ハ。走ルニ懶クシテ。其頭ヲ低レテ。羊群中ヲ旋廻シ。時トシテハ。自ラ大ニ輪旋スルモノア

リ。凡ソ此病ヲ醫スルノ難キ事ヲ知ラハ。其二三箇月ヲ歷テ。未タ此病ニ死セサルニ先ツテ。速ニ屠ルヲ可トス。

○オングンス獸畜ノ病名

○痰飲或ハ肝病ト稱スルオングンス病ハ。至テ危険ナル病ニシテ。卑濕ノ地方。又ハ陰濕ナル夏日ニハ。年々多少此病ノ發スル事アリ。此病ハ。總テ臟腑ノ衰弱ニ因テ發スル所ニシテ。則チ柔軟ニシテ水分多キ食物ヲ食フニ因テ發スルモノナリ。特ニ惡シキ天氣ハ。此病ヲ發スルノ原由ト云フ可シ。此病ニ罹ル羊ハ。悲

憂衰弱シテ。食欲ナク。雙眼及ヒ唇ハ。青白色トナリ。其毛枯瘦シテ自ラ脱落ス。此病ニ罹ル當初ハ。其糞堅クシテ乾キ。其最後ニ至レハ。却テ下痢ヲ發シ。其體大ニ枯瘦衰弱シテ。多少ノ時日ヲ歷テ。終ニ死ス。

○此病ノ因テ發スル所ノ原因ハ。常ニ其取扱方ノ宜シカラザルニアリ。則チ冬日滋養ニナラザル惡シキ食料ヲ與フルト。卑濕ニシテ殆ント沼澤ニ類スル牧場。若クハ惡シキ牧草ヲ食フ等ニアリ。又馬鈴薯ヲ多食シ。若クハ蕪菁マンゲル蕪菁ノ類ノ根等ヲ多食スルニ因テモ。此病ヲ發スルヲアリ。

○此病危篤ノ時ト雖モ、氣力ヲ發揮スル良好ノ食物ヲ與フレハ、大抵是ヲ防ク可シ。

○此病ヲ醫スルニ良効アル食物ハ、枯草及ヒ黄色ノリュビ子^ビ子^子ヲ與フルノ外他策ナシ。此等ノ食物ヲ食シムレハ、已ニ此病ニ罹レル羊ト雖モ、平愈スルニ至ル可シ。

○故ニ牧羊家ハ、其田圃ニリュビ子^ビ子^子ヲ蒔クヲ以テ、忘ル、^一無カル可シ。リュビ子^ビ子^子ヲ蒔ク可キ土地ハ、砂田ヲ以テ最適當ノ地ト為ス。總テ砂多キ土地ハ、多ク羊ヲ牧スルニ適當セリ。

○羊ノ此病ニ罹ルヲ知ラハ、直ニ良好ノ枯草^カ乾^カシタル大麥、粗碎セル穀物ヲ食シム可シ。此時若クハ硫酸ヲ含メル飲料ヲ飲マシム可シ。

○病發スルノ日ノ翌日ニ至テ、其羊毎ニ鹽一ロ^一ロ^一ド^一ニ^一分^一六^一分^一六^一厘^一ヲ與フ可シ。

○又櫛皮末、杜松子末、各二分ヲ混和シ、或ハ芸香葉一分ヲ加エ、少シ宛^ツ與フ可シ。即チ其羊毎ニ、毎日二ロ^一ロ^一ド宛食シム可シ。

○此ノ如ク為ス時ハ、預メ其病ヲ防グ可シ。且其食料ニハ、乾キテ健康ニナス可キ品ヲ與ヘテ、其取扱ニ善

ク意ヲ用フ可シ。若シ病羊、煩渴引飲スルニ至ラハ已ニ其病醫シ難シト知ル可シ。

- 痘瘡
- 疥癬
- 爪病
- 鼓脹
- 痘瘡

○痘瘡ハ至テ危険ノ一病ナリ。凡ソ獸畜ノ此病ニ感スルハ、人間ノ此病ニ感スルト同一ニシテ、或ハ其原由ノ判然タラザルコトアリ。然リト雖モ、此病ノ輕重ニ從テ、多少傳染シテ、速ニ廣延スルコトアリ。冬日ハ羊、小屋ノ中ニ群居スルガ故ニ、其病廣延シ易シ。夏日ハ屋中ニ群居スルコト無クシテ、多クハ牧場ニアリテ、新鮮ノ氣中

ニ逍遙スルガ故ニ、其病廣延スル事少シ。

○然リト雖モ、此傳染ノ因テ來ル所ヲ原ヌルニ、十五日^多前偶痘ヲ患フル羊ノ牧場ヲ過キタリシニ因テ、此ニ感セシコト有リト云ヘリ。

○痘ニ二種アリ、良性及ヒ惡性是ナリ。

○良性ノ痘ハ、通例其毛ノ薄キ所ニ生シ、其痘各箇ニ分界シテ相接セス。終ニ熟シテ乾クニ至ル。惡性ノ痘ハ、善ク其質ヲ熟考セズンハアル可カラズ。此事ニ就テクログニール氏ハ左ノ説ヲ述タリ。

○此惡性ノ痘ニ感スル羊ハ、發熱シテ、呼吸困難、其氣

息惡臭アリテ。其體衰弱シ。時トシテハ。甚々大ヒニ衰弱スル事アリ。試ニ聊^聊其毛ニ觸ルアレハ。忽チ脱落ス。其口中乾燥シテ大渴シ。夥シク涎ヲ吐ク。又其鼻孔ヨリ。黄色ニシテ臭氣惡シキ血狀ノ粘液ヲ流ス。此液時トシテハ。鼻孔中ノ表皮ニ粘着シテ。是ガ為メニ呼吸シ難キヲアリ。眼ハ焮衝シテ。頭ハ腫脹ス。此痘發スルニ至テ其熱少シモ減セズ。而シテ良症ノ痘ト反シテ。夥ク相密接シテ發生シ。其痂廣クシテ粗ナリ。而シテ其兩脇瘦脱シテ。其羊終ニ死ス。時アリテ唇耳大ニ熱シ。唇及ヒ其體ノ諸部大ニ瘦脱スルヲアリ。

○惡性ノ痘ヲ取扱フハ。巧手ノ獸醫ニ托ス可シ。
○良性ノ痘ハ。惡性ノモノニ反シテ。通常醫術ノ助ヲ假ラズシテ平愈ス。病中ハ羊ヲシテ濕氣ヲ受ル^ト無カラシメ。是ヲ温保シテ。健康ノ為メニ良効アル乾糧ヲ與ヘ。其飲水中ニ。些少ノ酸味ヲ加ヘテ飲シム可シ。此病變スル時ハ。日々其飲水ニ。龍胆ニ些少ノ酒ヲ和シテ。飲シム可シ。若シ良症ノ痘惡性ノ症ト變スル時ハ。其痘ノ變性スル始メニ於テ。痘羊ハ他羊ト區別シ。食ヲ與フルモ。亦他羊ト同シカルベカラス。

○疥癬

○疥癬ノ發セル部ハ其毛脱落シ能ク自カラ其部ヲ
摩擦シテ抓破ス此患部ノ表皮ハ至テ厚クシテ是ヲ
壓オストキハ痛ヲ覺ヘ或ハ是ヲ搔ク時ハ羊ヲシテ快意
ヲ覺ヘシム。

○疥癬傳染セントスル時ハ此病ニ罹ル羊ヲ健康ナ
ル羊ト區別シ置ク可シ。

○ワルス氏ハ疥癬ヲ醫スルニ石灰四分ポツタース
五分ニ牛尿ヲ混和シテ粥トナシ是ニ鹿角油六分チ
ヤン三分牛尿二百分水八百分ヲ混合セルモノヲ用
ヒタリ若シ唯二三匹ノ羊疥癬ヲ病ムトキハ灰汁ヲ

製シテ以テ羊ノ體中疥癬ノ發スル部分ヲ洗フ可

シ或ハ已ニ其全體疥癬發スルモノハ灰汁中ニ浴セ

シム可シ若シ灰汁中ニ浴セシムルヲ以テ煩擾トナ

ストキハ其背ヨリシテ下部ニ至ル迄其毛ヲ分ケテ

注水器ミツツギヲ以テ灰汁ヲ注ク可シ此ノ如クシテ而ノ後

ニ羊背ヲ地ニ向ケテ其腹ヨリシテ復其毛中ニ灰汁

ヲ注キ終ニ其全體灰汁ニ浸濕スルニ至ラシム可シ

一匹ノ羊ニニカン量名カシハ我五合五勺四ノ灰汁ヲ用フ可シ

○又マン氏ハ此事ニ就テ一匹ノ羊ニ用フル灰汁ハ

尋常ノ烟草十二口一口トハ我二ト又六ト六厘コルヒトリオール

二十ウ井フチー一ウ井フチーハ我尿三カニヲ用フ可シ
ト云ヘリ。此法尿水ヲ以テ烟草ヲ煎スル一時間。而
シテ後ヒトリオールヲ加ヘ。又四半時ノ間。是ヲ煎ル可
シ。

○又一法アリ。豕脂半斤一斤ハ我ニテルペンテイ
油ニオンス一オンスハ我ニ及ヒ硫黄二オンス半ヲ
以テ混和シタル軟膏ヲ製シテ。指爪若クハ。小刀ヲ以
テ。疥癬ノ痂皮ヲ取除ケ。而後ニ是ヲ塗ル可シ。
○善ク此療法ヲ施ストキハ。其病容易ク平愈ス可シ。
羊ヲシテ常ニ清淨ナラシメ其養方ニ意ヲ用フルハ。

最良ノ預防法ト云フ可キナリ。

○爪抓病

○羊ニ跛コレウヘル不ト齶跛フートエウフエル毛虫ハルオムト名ル爪抓病ア
リ。羊ノ此病ニ罹ルハ牛ノ此病ニ感スルト同一理ニ
シテ。其足ヲ洗ヒテ清淨ニナスヲ必要トナス。而シテ
短キ利カヲ以テ其垂レタル角ヲ切り其創口ニユ
ールカルクヲ水ニ和シ粥トナシテ塗ル可シ。
○其他食鹽。杜松子。龍且根。菖蒲根ヲ蜂蜜ニ和シテ。用
フ可シ。爪抓病ヲ醫スル預防法ノ如キハ。嚮キニ已ニ
述ベタリ。

○鼓脹

○若シ羊鼓脹病ニ罹ル時ハ、流水中ニ逐ヒ入テ、游泳セシム可シ。僅カニ唯一二匹ノ羊ノ此病ニ罹ルトキハ、冷水ヲ注キ、藁帶ヲ以テ、其口中ニ食シム可シ。其餘ハ皆牛ノ鼓脹病ヲ醫スル方法ト同一ナリト知ル可シ。

牧羊說卷之二 終

全 明治十五年五月十三日版權免許
年六月 出版

静岡縣士族

翻譯者

杉山親

全縣士族

出版人

木平愛二

東京府士族

出版人

穴山篤太郎

京橋區南傳馬町二丁目十三番地

發兌

有隣堂

京橋區南傳馬町二丁目十三番地

